

巣箱からのぞく生態系

弘前

フクロウ×ネズミ×リンゴ園

リンゴの木の根をかじり、被害を与える害獣・ネズミの駆除に役立つフクロウについて学ぶため、弘前市の青柳小学校(岩淵純校長)の5、6年生13人は17日、同市西部部の湯口地区のリンゴ園で巣箱を見学した。フクロウのひなはすでに巣立ち、姿を見ることはできなかったが、児童は巣箱でひなが育っていた痕跡から、フクロウの生態やリンゴ園との関わりを学んだ。(渡部雅士)

青柳小児童が観察

ネズミなど小動物を餌にする野生のフクロウを、リンゴ園の害獣駆除に役立てようと、同地区ではリンゴ農家ら30人ほどで結成する「下湯口ふるこの会」(石岡千景会長)が弘前大学農学生命科学部の東信行教授、ムラノ千恵機関研究員とともに2014年から巣箱設置を進めている。児童らははしごに上り、高さ2層のフクロウの巣箱の中をのぞいた。フクロウが羽や骨など消化できないものを吐き出した「ペレット」と呼ばれる塊に箸で触れ、観察した。5年生の石岡柊哉君は「巣箱の中には、かんや羽物を入っていた。来年は(ネズミの歯や頭蓋骨を確物を見たい)と話した。」



【写真上】フクロウの巣箱の中をのぞく児童
【同下】巣箱から巣立つ前のフクロウのひな(7日、弘前大学農学生命科学部・ムラノ千恵機関研究員提供の動画から)



上記の画像は、当該ページに限って”東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。